



お薬から見る健康づくり

— 高齢者医療費抑制に向けた医薬品適正使用の推進 —

「おくすり」問題

- ◆ 高齢者の増加に伴い、重複投薬や他剤投薬などの問題が顕在化
→ 副作用リスクの増加など深刻な不利益をもたらす
- ◆ 国の施策として医薬品の適正使用や医療費抑制が求められている

医薬品の適正使用を推進することで、地域住民の健康をサポートし、健康なまちづくりに寄与することを目指す

今年度は活動を拡大し「おくすりサロン」を白山市でも実施！
→ 多剤投薬や重複投薬への取り組みをより広い範囲に展開した

① 地域活動

- ✓ 野々市市内 **8カ所**・白山市内 **2カ所**においておくすりサロンを実施
地域高齢者など延べ **149名**（12月末現在）が参加！



学生によるおくすり〇×クイズで楽しく学べる環境を！

学生と高齢者の交流の場に！



多剤投薬のリスクなどについての講話も実施



- ✓ 「おくすりサロン」などで活用するキャラクターの作成
 - ・ 地域住民に医薬品の適正使用など健康意識を高めてもらう
 - ・ 金城大学短期大学部美術学科の学生提案のキャラクター案から投票により採択



提案されたキャラクター案について協議する様子



キャラクターシルエット

次年度以降の活動で活躍する予定なので、お楽しみに！

白山市・野々市市
×
金沢大学



② 研究活動

✓ 野々市市国保データベース（KDB）

国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、特定健診などに関する情報を含む大規模データベース

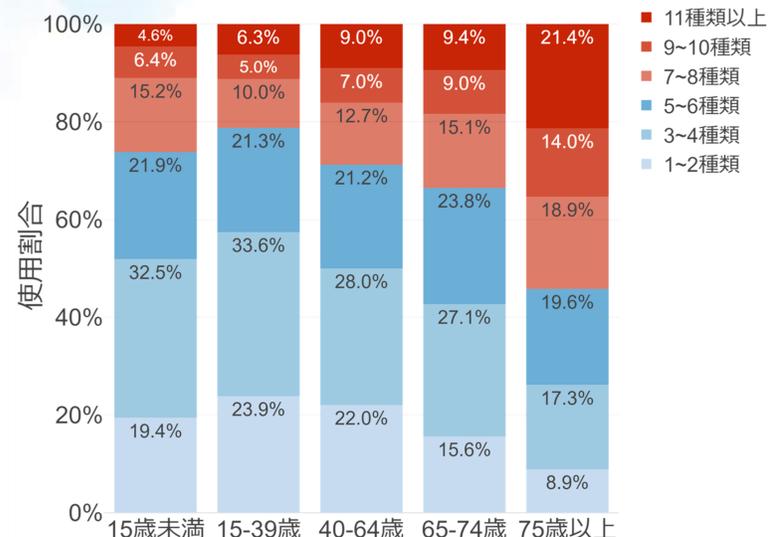
地域の健康・医療・介護・福祉に関する課題は多い...



KDBデータの解析により...

課題を明らかにし、具体的な解決策を提案！

加齢に伴う薬剤数の変化（2023年度）



- ◆ 加齢に伴い、服用している薬剤数が増加
→ 多剤投薬の現状が明らかになった

今後はリスク要因や改善策を明らかに！

今後の目標

- ① おくすりサロンの継続開催（野々市市・白山市）
地域住民の医薬品適正使用に関する意識向上
- ② KDBデータを活用した研究の発展
 - ・ 解析結果をおくすりサロンにフィードバック
 - ・ 地域の保健事業や行政政策に活用
→ 持続可能な健康づくりの体制を構築する

金沢大学医薬保健研究域薬学系 臨床薬学研究室

担当教員：菅 幸生，石田 奈津子

担当学生：竹中リナ，柴田 祥士弘，高垣 皓一，藤森 麻弥，山内 彩椰，
浦山 睦，瀬山 春佳，瀧本 悠晴，宮浦 茉奈，
井波 楓怜，岸野 結衣，前田 音羽，吉原 和花南



1. 活動の要約

本活動は、医薬品の適正使用を推進し、高齢者医療費の抑制や地域住民の健康意識向上を目指して実施されたものである。野々市市および白山市の地域サロンにおいて、高齢者を対象とした「おくすりサロン」を開催した。本サロンでは、教員による多剤投薬や重複投薬のリスクに関する講話や、お薬手帳の活用方法を中心とした個別相談を実施した。また、ゼミ学生が参加者と交流しながら「おくすり〇×クイズ」を行い、楽しく学べる場を提供した。これにより、地域住民にとっては健康について学ぶ機会を、学生にとっては地域の健康問題を考える実践の場を提供することができた。さらに、啓発活動の一環としてキャラクターを作成中であり、次年度以降の活動での活用を予定している。

一方で、野々市市との共同研究として、国保データベース（KDB）を活用した研究を開始した。年齢や性別、地区ごとの医薬品使用状況を分析し、多剤投薬や重複投薬の具体的なリスク要因を明らかにすることで、データに基づいた地域施策の提案を目指している。この研究成果を「おくすりサロン」などの地域活動に反映し、住民への情報提供をさらに充実させることで、より効果的な啓発と実践的な介入を実現する。

これらの取り組みを通じて、地域住民の健康意識向上と生活の質の改善を図り、持続可能な健康づくりの基盤を築くことを目標としている。

2. 活動の目的

近年、医療サービスの多様化や複数の医療的介入を必要とする高齢者の増加に伴い、重複投薬や多剤投薬などの薬物療法に関連する問題が顕在化している。特に高齢者では、医療費の増大に加え、多剤投薬や重複投薬が副作用リスクの増加や服薬アドヒアランスの低下など、深刻な不利益をもたらすため、地域行政にとっても重要な課題となっている。2020年4月から本邦で実施されている「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」においても、これらの課題は対処すべき重要なテーマとされているが、石川県では十分な取り組みが進んでいないのが現状である。

このような背景を踏まえ、当ゼミでは2022年度から野々市市と協働で「くすりと健康プロジェクト」を展開している。本活動では、薬剤師の経験を有する教員と学生が中心となり、「おくすりサロン」の開催など地域住民と連携した活動や、KDB データを活用した研究を通じて、野々市市における医薬品の適正使用を推進し、住民の健康支援と健康なまちづくりへの貢献を目指している。今年度はさらに活動を拡大し、「おくすりサロン」を白山市でも実施することで、多剤投薬や重複投薬の改善・解消に向けた取り組みをより広い範囲に展開することを目的とした。

3. 活動の内容

<地域活動>

2024年度は、引き続き野々市市内の地域サロンにて「おくすりサロン」を開催した。本サロンでは、教員が多剤投薬や重複投薬のリスク、お薬手帳の役割、医薬品適正使用における薬局や薬剤師の活用方法について講話を行い、個別相談も実施した。また、ゼミ学生による「おくすり〇×クイズ」を通じて、楽しく学べる場を提供した。さらに、野々市市が包括連携協定を締結している企業の協力を得て、骨強度測定も行った。今年度は新たに白山市の地域サロンでも「おくすりサロン」を開催し、活動範囲を拡大した。

また、地域住民の医薬品適正使用に対する意識をさらに高めるため、次年度以降の「おくすりサロン」などで活用するキャラクターを金城大学短期大学部美術学科の学生に依頼し、作成を進めた。



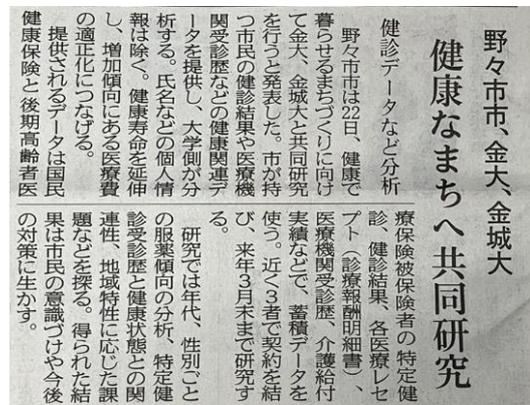
おくすりサロンの様子

<研究活動>

2024年10月に野々市市と共同研究契約を締結し、KDBデータの解析を開始した。

国保データベース（KDB）システムは、国民健康保険・後期高齢者医療、介護保険、特定健診などに
関する情報を含む大規模データベースで、市町村が効率的かつ効果的な保健事業を実施するための支援を目的として
いる。当ゼミでは、地域の健康・医療・介護・福祉に関する課題を明らかにし、具体的な解決策を提案することを目的に研究を進めてきた。

本研究では、多剤投薬や重複投薬の実態を把握し、そのリスク要因や改善策を明らかにすることを目指している。また、データ解析結果を基に、医薬品の適正使用を促進するための保健事業の提案を検討している。



2024年10月23日(水) 北國新聞朝刊

4. 活動の成果

1) おくすりサロンの実施

野々市市内8カ所と白山市内2カ所、合計11カ所（予定含む）でおくすりサロンを開催し、12月末現在で地域高齢者など延べ149名が参加した。本年度のおくすりサロンには10名のゼミ学生が参加し、「おくすり〇×クイズ」の進行、会場設営、参加者対応などを担当した。

2024年度に開催したおくすりサロン

日時	開催市	場所	参加者人数
2024年4月19日	野々市市	押野公民館	33名
7月23日	野々市市	押越コミュニティセンター	15名
9月4日	野々市市	郷公民館	
10月3日	野々市市	二日市町会館	
10月16日	野々市市	あすなる団地内集会場	
11月27日	野々市市	あやめ会館	
12月2日	野々市市	柳町集会所	
12月23日	白山市	米永町研修センター	14名
2025年1月30日	白山市	美川和波町東地区公民館	—
2月4日	野々市市	野々市市女性センター	—

2) おくすりサロンキャラクターの作成

地域住民に医薬品の適正使用など健康意識を高めてもらうため、本活動用のキャラクターを作成した。金城大学短期大学部美術学科の学生が提案したキャラクター案の中から、当ゼミ教員・学生、連携ゼミ教員、野々市市職員の投票によりキャラクターを決定した。このキャラクターは今後一部修正を行った後、次年度以降の活動で使用する予定である。

3) KDB を活用した研究の実施

2024年11月よりKDBデータの本格的な解析を開始した。まずは年代ごとの使用薬剤数を集計したところ、年齢の上昇に伴い薬剤数も増加し、後期高齢者の約半数が7剤以上を使用していることが明らかになった(図1)。この結果から、後期高齢者を中心に「おくすりサロン」の実施などを通じて医薬品の適正使用を推進することの重要性が示唆された。

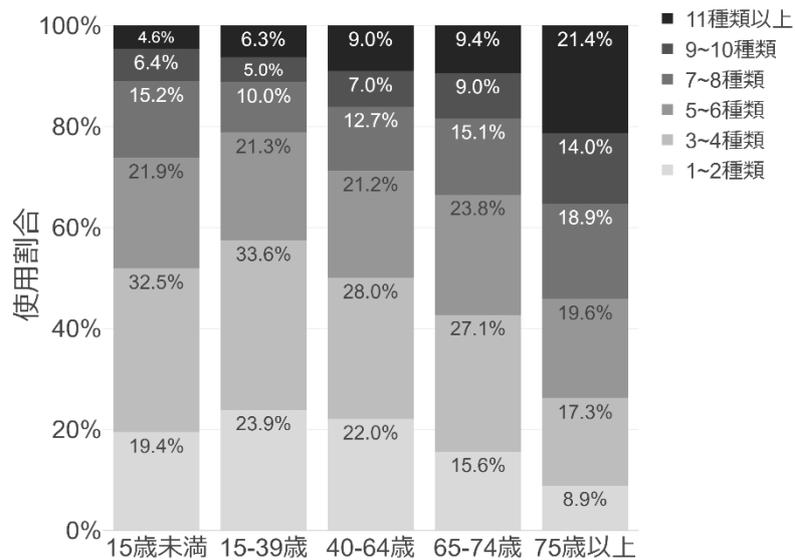


図1 野々市市における年齢別使用薬剤数(2023年度)

また、2025年3月13日に第1回KDB分析報告会を野々市市役所で開催し、解析結果の報告と今後の展望に関する意見交換を行う予定である。

5. 今後の活動計画

2025年度以降、「おくすりサロン」を野々市市および白山市内で継続的に開催し、多剤投薬や重複投薬のリスクに関する啓発活動を地域全体に広げる。また、地域住民の医薬品適正使用への意識向上を図るため、今年度採択されたキャラクターを活用し、パンフレットやポスター、デジタルコンテンツ等を制作し、活動を強化する。

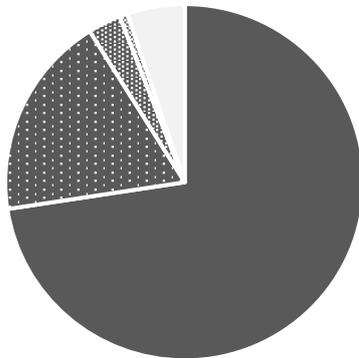
野々市市では、KDBデータを活用した研究を継続し、年齢や性別、地区ごとの医薬品使用状況を明らかにする。この情報を「おくすりサロン」の内容に反映させることで、より効果的な住民啓発を実現する。また、多剤投薬や重複投薬の具体的なリスク要因を解明し、データに基づく地域施策や介入方法の開発を進める。さらに、今後は後期高齢者医療広域連合などとも連携を図りつつ、研究成果を地域の保健事業や行政政策に活用し、高齢者の健康維持と医療費抑制に貢献する。

これらの取り組みを通じて、地域住民の健康意識向上と生活の質の改善を図り、持続可能な健康づくりの体制を構築することを目標とする。

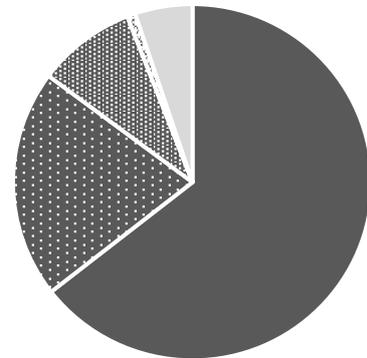
6. 活動に対する地域からの評価

2024年度おくすりサロンに参加した野々市市民にアンケートを実施し、下記回答を得た。

質問 1. 講話の満足度

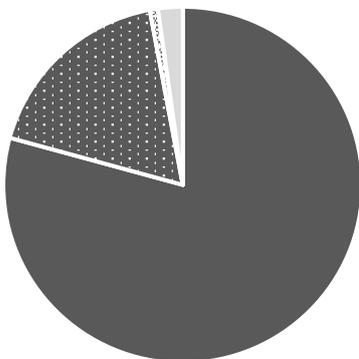


質問 2. おくすり〇×クイズの満足度

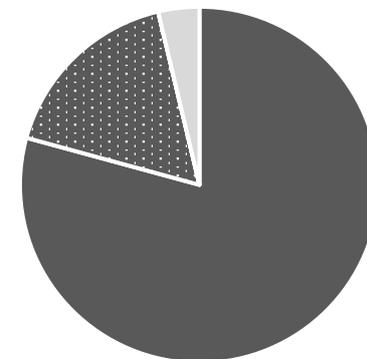


■ 満足
 ■ やや満足
 ■ 普通
 ■ やや不満
 ■ 不満
 ■ 未回答

質問 3. お薬との付き合い方



質問 4. 薬剤師の役割



■ よくわかった
 ■ 少しわかった
 ■ ほとんどわからない
 ■ 全くわからない
 ■ 未回答

また、本活動について野々市市および野々市市地域包括ケアセンターの方から以下の声を頂いた。

- 地域の高齢者にクイズを通して、薬の服用タイミングや処方せんの期間など広く様々な知識を楽しく教えてもらうことができました。また持参したお薬手帳を見せて、相談している方もおり、自分の身体について理解を深める機会となりました。
- 服薬情報をはじめ健康に関するデータを分析していただくことで、住民の健康寿命の延伸や、医療費の適正化に寄与していただけることと期待しております。すでに、過去から現在にかけての服薬量の減少など、わかりやすい比較データが得られてきているとのことで、分析結果の地域住民へのフィードバックなども模索していきたいところです。